



献血ってどうして必要なの？



「**献血**」とは、病気やけがで輸血や血漿分画製剤を必要とする患者さんのために、自分の血液を自発的かつ無償で提供することです。

病気やけがで血液が必要な患者さんは、健康な人の血液を補給して治療する必要がありますが、これを「**輸血**」といいます。

また、「**血漿分画製剤**」は、やけどや感染症、血友病の治療などに使われる医薬品で、「**血液**」からつくられます。

この「**血液**」は、国民の皆様の善意の献血によって提供されているのです。

献血が必要なわけ（輸血用血液の場合）

人工的に造れない！

現代は、医療技術がどんどん進歩しています。しかし、血液はいまだに人工的に造ることができません。

だから、「献血」でたくさんの人から血液を集めるしかないので。

長期保存ができない！

血液は生きた細胞の集まりなので、長い間保存ができません。

いつでも患者さんに血液を届けられるように、毎日新しい血液を確保しなくてはなりません。（詳しくは p.4 へ）

1日約3千人！

何の数字だと思いますか？

実は、輸血を受けている患者さんの数なんです。

毎日、こんなに多くの患者さんが、血液を必要としています。

最多はがん治療！

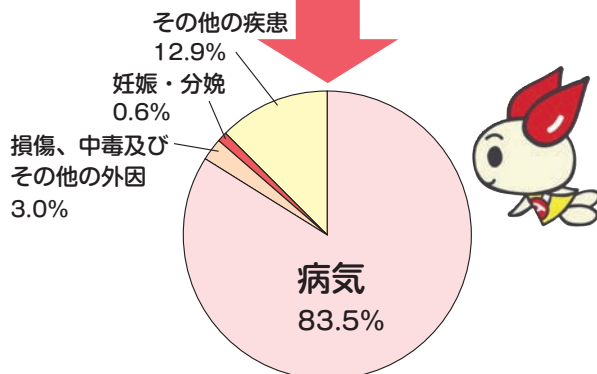
輸血はどのような時に使われるのでしょうか？

多くはがん治療で、約40%を占めます。

このような病気の治療で、血液は常に必要とされています。

「輸血」というと、大けがした時に使われるイメージがあるけれど・・・

けが治療はわずか3.0%で、ほとんどは病気の治療に使われているっち！



(平成27年 東京都福祉保健局調べ)